



# 水と衛生

## 世界の水をめぐる問題と安全な水の大切さを知ろう

蛇口をひねると水が出る。日本では当たり前の光景ですが、世界に目を向けると、こうした国はひと握り。現在、水道が整備されず「安全に管理された水」を使えない人は約20億人。これは世界の人口の約4分の1にあたります。

また、約36億もの人がきれいなトイレを使うことができていません。上下水道の設備が整っていない国では、工場や家庭から排出された汚水が川に流され、そのまま飲み水として使われています。衛生的に処理されていない水は、

子どもの健康にも大きな影響を与えます。世界では、年間30万人、毎日約800人もの乳幼児が汚れた水を主な原因とする病気で命を落としていきます。危険だと分かっているにもかかわらず、生きるためにはその水を飲むしかないのです。



### SDGs×水の循環

水は、海から蒸発し雲となり、雨や雪となって地上に降ってきます。その後、水は森などの陸地にしみ込んで地下水となったり、湧き水が集まり川となったりして、再び海に戻ります。

私たちは、その水の循環の中で、主に川から水を利用しています。流域全体で川の水を分け合い、水道用水や農業用水などに利用しています。また、さまざまな生き物や植

物なども、川の水によって育まれています。ただし、川の水には、人間の体に有害な物質やウイルス、菌なども含まれています。また、私たちが使用した後の水をそのまま川や土壌に流すことは環境汚染につながってしまいます。そこで、浄水場や浄化センターなどの施設で、安全に使える水をいつでも得られ、使った水はきれいな状態で自然に戻せるよう、さまざまな取り組みが行われています。水に関する理解を深めることで、安全な水の価値を再認識しましょう。



保呂羽浄水場

### SDGs×上水道

河川や湧き水からポンプでくみ上げて浄水場に送られた水は、浄水施設でろ過され、薬剤注入や水質検査などを経て、安全でおいしい水道水になります。登米市内には9カ所の浄水場があり、昨年度は1日当たり最大で約3万3千トンの水を作っています。これは25リットルで約61杯分もの水量になります。

浄水場で作られた水は配水池に貯められ、配水管を通じて家庭や事業所、学校などに届けられます。

**SDGs×水の使用**  
家庭や事業所、学校などで私たちが毎日使用している水道水は、浄水場から水道管を通じて送られています。料理や風呂、洗濯、トイレなど、生活に欠かせない水道水。一般家庭では、一人当たり1日約270リットル(2リットルペットボトル135本分)の水を使用しています。



浄水場では、経験豊富な業務従事者を配置し、施設と設備の運転、保全および水質確保を円滑、的確に管理しています。災害や事故などの緊急時には、漏水や水質の速やかな復旧対応を行い、安全な水を皆さんに届けるために尽力しています。

また、環境負荷軽減にも積極的に取り組んでおり、施設の更新による節電や、電気自動車採用で二酸化炭素排出削減に努めています。この他、大切な水源を守るための活動として、職員で定期的な河川敷の清掃作業を行っています。



保呂羽浄水場の管理業務を行っている受託者による河川敷清掃活動の様子

水を大切に使いましょう

### 今日からできる節水



**【洗面所やトイレ、洗濯で】**  
□歯磨きや洗顔のとき、水を流したままにしない。  
□水洗トイレの大小レバーを使い分ける。  
□洗濯の回数を減らし、まとめて洗う。

**【炊事するとき】**  
□食材などを洗う時は水を流したままにしない。  
□食器は汚れが落ちやすいよう、水につけておく。  
□食器用洗剤などを使い過ぎない。

**【お風呂のとき】**  
□残り湯は捨てずに、洗濯などに再利用。  
□シャワーの水を流したままにしない。



シャワーを1分短くするとペットボトル約6本分の水が節約できるとン

## 上下水道



佐沼環境浄化センター

### SDGs×下水道

登米市は公共下水道(5処理区)、農業集落排水(26地区24施設)、その他の地区で合併処理浄化槽を整備し、汚水を処理しています。

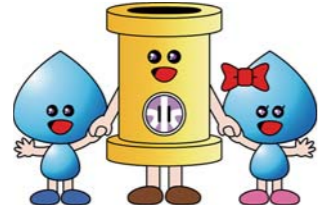
公共下水道および農業集落排水処理区域では、家庭や事業所などから排出された生活排水などは下水道を通じて排水処理施設へと送られます。汚れた水は、施設できれいな状態に戻して河川などに放流することで、水質と自然環境の保全に努めています。きれいなまちを未来へつなぐため、下水道についての理解を深めましょう。

## 上下水道



市上下水道部ホームページ

登米市下水道事業キャラクター「水守(みもる)さん」



登米市水道事業キャラクター「ジョーくん」「スイちゃん」